

浜松市障がい者自立支援協議会 西エリア連絡会

第1回全体会 会議録

- 1 開催日時 令和6年7月25日 午後1時30分から午後3時18分
- 2 開催場所 西行政センター 3階 大会議室
- 3 出席状況 ※敬称略

構成員 相談支援事業所まで
四季の郷
みなみ
浜松手をつなぐ育成会
好生会三方原病院
浜松市社会福祉協議会西地区センター
中央区西民生・児童委員協議会
浜名特別支援学校
放課後等デイサービス浜松西校
地域包括支援センター雄踏

事務局 浜松市西障がい者相談支援センター
浜松市中央福祉事業所社会福祉課西社会福祉グループ

オブザーバー 浜松市障がい者基幹相談支援センター

- 4 傍聴者 16人
- 5 議事内容
- 1 開会
 - 2 中央福祉事業所社会福祉課専門監挨拶
 - 3 構成員自己紹介
 - 4 報告事項
 - (1) 市自立支援協議会報告
 - (2) 市自立支援協議会西エリア連絡会の説明
 - (3) 日中サービス支援型GH評価について
 - (4) 令和5年度西・南センター実績報告

(5) 令和6年度西センター4, 5月実績報告

5 協議事項

(1) 西エリア連絡会会則

(2) 令和6年度西エリア連絡会 活動計画案

6 質疑応答

7 その他

8 閉会・次回開催予定

6 会議録作成者 浜松市中央福祉事業所社会福祉課西社会福祉グループ

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 有・無

8 会議記録

1	開 会	司会：浜松市西障がい者相談支援センター
4	報告事項	
	(1) 市自立支援協議会報告	
		資料に基づき説明
		※質疑応答無し
	(2) 市自立支援協議会西エリア連絡会の説明	
		資料に基づき説明
		※質疑応答無し
	(3) 日中サービス支援型GH評価について	
		【ソーシャルインクルーホーム浜松雄踏町、 ソーシャルインクルーホーム浜松馬郡】
		資料に基づき説明
		<主な報告内容>
		・令和5年度は初年度、令和6年度は評価後年度。
		・資料⑤ガントチャート内⑩評価結果を受けての実践を行っていく。
		・令和6年度の予定として、9月上旬にGH見学会、10月以降にエリア 連絡会報告、1月の企画会議で報告となる。
		※質疑応答無し
	(4) 令和5年度西・南センター実績報告	
		資料に基づき説明
		※質疑応答無し

- (5) 令和6年度西センター4, 5月実績報告
資料に基づき説明

※質疑応答無し

5 協議事項

- (1) 西エリア連絡会会則

資料に基づき説明 → 承認

- (2) 令和6年度西エリア連絡会 活動計画案

資料に基づき説明

<主な報告内容>

・区の再編などもあり、今年度かけて西エリア連絡会の体制を作っていく。

※説明について質疑応答無し

- (3) 今後の西エリア連絡会の活動に向けた意見交換

各機関の支援の状況と課題等について

○四季の郷

- ・地域への移行という視点で家族とも面談をしているが、家族の不安もあるのと、障害が重く地域での生活は困難な方が多い。
- ・GHでどのくらいのサポートが受けられるのか、人員・設備が整っていないと難しいと思う。

○好生会三方原病院

- ・入院相談で出てくる課題としては、高齢化や機能低下がある。
- ・包括などと連携しているが、親なき後の問題もある。

○地域包括支援センター雄踏

- ・65歳になっての介護保険との兼ね合いが悩ましい。
- ・本人に合うところを探すのが大変。障害によって受け入れ先がない。
- ・本人の了承が得られず、受診につながらない問題もある。

○中央区西民生・児童委員協議会

- ・相談を受けても、自分たちだけでは地域にうまく馴染めない。
- ・苦勞している地域の状態は、“泣き寝入り”になってしまっている。
- ・認知症なのか障害なのか、入院対象になるのかわからない。
<→包括…症状によっては地域のクリニックから紹介状が出る>

○浜松市社会福祉協議会西地区センター

- ・民生委員さんから、希死念慮がある方からのメールや電話が曜日・時間問わず来ているという相談が入る。民生委員さんも苦しいと思う。その際は、対応を行う線引きをするように助言している。
- ・障害への対応方法がわからないため、地域も本人も苦しい。
- ・相談機関への相談を勧めても「そこまではいい」と言われてしまうこともある。

○みなみ

- ・雄踏に移って約6年。地域との関りを増やしたい。
- ・3障害の支援をしているが、特に精神障害への対応のスキルアップが必要。事例検討のような勉強会の必要性を感じている。

○浜名特別支援学校

- ・保護者も先生も進路先がなかなか描けない。情報が欲しい。
- ・家族の方も、高齢や障害で支援が必要な方が多いが、こちらが必要だと思うサービスでも、利用まで至らない。困り感を出してもらえない。
- ・相談機関と関りがあればいいが、関りがなくなかなか支援につながらない。

○放課後等デイSES浜松西校

- ・放デイに希望があっても、定員の問題もあり空きがない。
- ・送迎にも限界があり、送迎ができず受け入れられないことも。
- ・卒業後関係が途絶えてしまい、その後がわからない。
- ・学校から放デイだと帰宅は17時・18時ぐらいだが、卒業後就労すると帰宅は15時くらい。家族も仕事があり困ってしまう。仕事を辞めないといけなくなる。

<→みなみ…仕事がある親の場合は、延長で預かっている>

- ・卒業後の余暇活動がない。

<→四季の郷…日中一時支援事業の利用は土日が多い>

○相談支援事業所まで

- ・高齢の家族送迎で地域から通所している方がいるが、家族の送迎がなくなると利用できなくなる。
- ・家族支援の関わりの問題はどうしても出てくる。本人を受け止める力が地域でどれだけあるか。
- ・支援者側が関係機関の役割・業務を把握して、つながっておくことが大事。地域での支援が厚くなる。

<→民児協…特に夜の対応ができない。対応できないとその後

連絡がこなくなる。個人ではどうにもならない。センターで相談できるようになったので以前よりは楽になったが、状況の本質は何も変わっていない>

○浜松手をつなぐ育成会

- ・親の会で勉強できている。でも、例えば卒業後の帰宅時間の問題で、困るのは親だがそれが理解できていない。午後3時頃から子供がうろうろしている。このことは、放デイができた時から心配していた。
- ・障害者は将来入所施設、と刷り込まれている。現在の正しい情報が親に浸透していない、子供のうちから進路を知っておくことが親の務めではないかと思う。
- ・親なき後など、地域生活への移行について、自分でできる力と障害サービスや社協の支援などを合わせ、自宅で過ごせれば。
- ・防災について、(先日の育成会の)講演会の講師は、「職員が駆け付けられないのでBCPは役に立たない。」と言っていた。

〈→民児協…地域の防災訓練では、実際、助けに行けないと思うから、訓練等を行っていない。〉

6 その他

- ・第2回と第3回全体会の日程調整を行う。

7 閉 会 浜松市西障がい者相談支援センター

以上